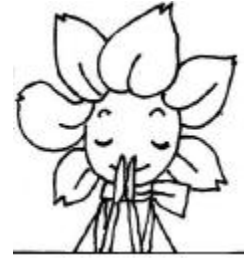




## 図書館先進地視察報告 (第2回)



いつも「み・リン」を読んでいただき本当にありがとうございます。

図書館では、前号から数回に分けて他市図書館への視察内容をご報告させていただいております。

第2回目の今回は「埼玉県 飯能図書館」です。ご覧下さい。

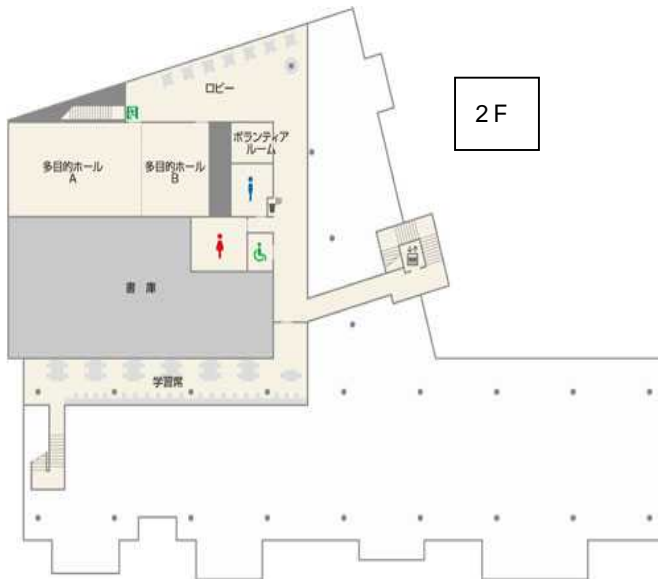


1F



館内 写真

東浦和図書館 配置図



2F

### 飯能市立図書館

- ・平成 25 年 7 月 1 日開館
- ・蔵書約 300,000 冊
- ・延べ床面積：2,712 m<sup>2</sup> (1F、2F 合計)
- ・職員数 17 名
- ・飯能市人口：81,394 (9 月 1 日現在)

6 月 18 日、飯能図書館へ視察に伺いました。

(7 月 1 日新館オープンの忙しい最中、ご対応いただきました。)

視察の見どころとして、飯能図書館は小諸市と同じく 2F 構造でホールがあること、施設規模が同規模程度であることなど様々ありますが、同館の特徴としてまず挙げられることは、建築材として地元の木材を多用していることです。ご存じの方も多いと思いますが、飯能市を含む埼玉県の南西部は「西川林業地」と呼ばれ古くから良質な杉やヒノキの産地として知られてきました。(この地方の材は西川材と呼ばれます) その様な経緯から、飯能図書館には柱、床、書架や備品に至るまで、ふんだんに西川材が使用されており、木の温もりや優しさ、その素晴らしさを体感することができました。また同館は、市内で活発なグラウンドホッケーの関連本を収集したり、「カーリル」と連動した情報公開サービスに取り組んだり、図書館として積極的な活動も実践しています。(お時間のある方は公式HPをご覧ください)

さて、森林県である長野県の東信地域も豊富な森林資源を有しています。現時点で明確な方法は未定ですが、新図書館には小諸市を含む東信地域の材を活用したいと考えています。